

# 郡山市教育振興基本計画審議会 第1回分科会 第1専門分科会 (学校教育分野) 開催結果

## 1. 会議概要

- 日時：令和6(2024)年8月9日(金)午後1時15分～午後3時30分
- 場所：郡山市役所 本庁舎5階 教育委員会室 (郡山市朝日一丁目23-7)
- 出席委員：7名  
阿部 光浩 委員 (私立幼稚園・認定こども園連合会会長 / 学校法人小原田学園理事長)  
高橋 信男 委員 (郡山市PTA連合会副会長 / 郡山市立芳山小学校PTA会長)  
武村 陽 委員 (郡山市いじめ問題対策連絡協議会委員 / 福島県弁護士会子どもの権利に関する委員会 人権救済部会長)  
丹治 勇喜 委員 (株式会社エフコム R&D戦略室室長)  
難波 和生 委員 (郡山市小学校長会副会長 / 郡山市立芳山小学校長)  
橋本 勉 委員 (福島県特別支援教育センター企画事業部長)  
渡辺 宗朋 委員 (尚志高等学校副校長)
- 欠席委員：1名  
宗形 潤子 委員 (福島大学大学院教職実践研究科長)
- 事務局：9名  
二瓶 元嘉 学校教育部長  
佐藤 香 学校教育部次長(併任) こども部次長  
遠藤 修 学校管理課長  
日下 明彦 学校教育推進課長  
吉田 圭輔 教育研修センター所長  
石井 研也 総合教育支援センター所長  
佐藤 友洋 総務部総務法務課長補佐(代理出席)  
山木 郁子 こども部保育課長補佐(代理出席)  
渡辺 啓一 教育総務部次長兼総務課長

## 2. 会議内容

- 分科会長選出：  
郡山市教育振興基本計画審議会運営要綱 第2条第3項の規定に基づく委員の互選により、分科会長を選出しました。  
分科会長 難波 和生 委員 (郡山市小学校長会副会長 / 郡山市立芳山小学校長)
- 議事：  
①郡山市の教育に関するアンケートの調査結果及び第3期計画における事業評価(所属一次評価)について  
事務局から郡山市の教育に関するアンケートの調査結果及び第3期計画における事業評価

(所属一次評価) を説明しました。

### 【質疑応答】

Q：小中学校特別支援教育派遣事業とスクールカウンセラー配置事業で目標値に対し未達成の状況であるが、その理由についてお教えてください。(難波 和生 委員)

A：小中学校特別支援教育派遣事業については、各学校からの要望があり、その要望に対して達成率が伸びなかったことが理由です。スクールカウンセラー配置事業については、相談件数が減少しており、この要因として考えら



れるのが、コロナ禍において、相談件数が非常に多く、それが現在減少しているのですが、どちらかというコロナの前の件数に戻ってきているという状況です。(石井 研也 総合教育支援センター所長)

Q：学校の要望数に対して、予算の確保ができなかったため未達成なのか、予算は確保したものの人員が確保できないため未達成なのかという点はいかがでしょうか。(橋本 勉 委員)

A：予算は確保したものの、それを上回る各学校からの要望があったためとなっております。(石井 研也 総合教育支援センター所長)

Q：特別支援学級に県の施策で講師を配置するという事業がありますけども、郡山市では人員を確保できているのでしょうか。(橋本 勉 委員)

A：特別支援学級の負担軽減枠の加配につきましては、県から優先的に全人員を配置することといただいております。現在、教員不足が叫ばれていますが、学校からのニーズが高いものですから、そちらに関してはいただいている枠に対して、全員配置が完了しているという状況でございます。(遠藤 修 学校管理課長)

### ②郡山ユースワークショップの提言について

事務局から郡山ユースワークショップの提言について説明しました。

Q：参加生徒さんは、自分から手を挙げた子なのか、学校から推薦された子なのかお教えてください。(丹治 勇喜 委員)

A：市内の各中学校から1名ずつ選出をお願いしまして、立候補なのか、他薦かは各学校にお任せしております。(渡辺 啓一 部次長兼総務課長)

Q：グループ編成についてはどのようにされたのでしょうか。(渡辺 宗朋 委員)

A：参加生徒には事前に課題を行っていただいております。各中学校で課題となっている点をあらかじめ把握し、参加生徒からの事前課題と興味関心に沿った6テーマを設定し、グループ編成を行いました。(渡辺 啓一 部次長兼総務課長)

Q：郡山第三中学校のように制服選択の自由について、他校でも広がっているのでしょうか。(難波 和生 委員)

A：令和4年12月に生徒指導提要が改定になりまして、生徒、保護者、地域の意見を採り入れながら時代に合ったものに見直していくようにということがあり、翌年1月に調査したところ1校を除き、校則があるということでした。その1校は小規模校で特に校則がなくても困らないという回答でした。過去3年間で校則の見直しをしたかという設問では、全部の学校でやった、あるいは近々見直しを行うとのことでした。女子のスラックスの導入については、制服導入では中学校なのですが、中学校27校、義務教育学校2校、計29校中、約半数が女子はスラックスを選べるようになってきているとの状況でした。(日下 明彦 学校教育推進課長)

Q：学校規模が異なる参加生徒同士の話し合いの中で、学校規模が小さい中学校の参加生徒が他校生徒ともっと関わりたいという意見もありました。全体的に学校規模も小さくなってきているのでしょうか。(難波 和生 委員)

A：少子化については本市でも深刻になっており、教育委員会では、適正な学校規模と学校方針について定めており、適切な学校規模というのはやはり多様な学びが成立する、そして学校規模として成り立つ規模というのはある程度人数がなければ成り立たないということを前提に地域の方々とお話をさせていただきながら、本来の学校のあるべき姿と配置の状況についてご相談をさせていただいているところです。今後も生徒数が徐々に減少してくるかと思いますが、学校は地域のコミュニティの中心という面もございますので、引き続き地域の方々にご相談させていただきながら対応してまいります。(遠藤 修 学校管理課長)

### ③第4期計画の策定に向けた課題と今後重点的に取り組むべき事項について

議事①郡山市の教育に関するアンケートの調査結果及び第3期計画における事業評価(所属一次評価)及び②郡山ユースワークショップの提言を踏まえ、第4期計画の策定に向けた課題と今後重点的に取り組むべき事項について、委員から意見をいただきました。

意見については、「郡山市教育振興基本計画審議会委員からの意見一覧」のとおり

### ④その他

9月の第2回専門分科会の日程について説明しました。

第2回専門分科会(学校教育分野)：令和6(2024)年9月17日(火)

〃(生涯学習分野)：令和6(2024)年9月18日(水)